

報道機関各位

「北九州市の男女共同参画社会に関する調査報告書」の公表について

この度、男女共同参画社会に関する北九州市民の意識や実態等について調査を行いました。

本調査は、前回の調査（平成29年度）からの意識変化等を踏まえて、「第5次北九州市男女共同参画基本計画」（令和5年度策定、6年度より実施予定。）を策定するための基礎資料とするとともに、現在の第4次計画の進捗状況の把握に活用いたします。

<調査の特徴>

- 今回の調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に否定的な割合が**77.8%**と、前回調査の68.1%より9.7ポイント上昇し、**過去最高**となりました（性別による固定的役割分担意識の希薄化）。全国平均（令和元年度調査）の59.8%より18ポイント高くなっています。
- また、女性が職業を持つことに関して、「ずっと職業を持っている方がよい（職業継続型）」が**51.9%**と最も回答割合が多くなり、前回調査で最も回答割合が多かった「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい（再就職型）」の回答割合35.7%を逆転しました。
- 「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」という言葉の認知度が**89.8%**と、前回調査の55.2%を大幅に上回りました。

<調査方法等>

- 1 調査対象 市内在住の18歳～75歳の男女4,000人(市民基本台帳から無作為抽出)
- 2 調査期間 令和4年9月5日～9月30日
- 3 調査方法 郵送配布（回答は郵送とインターネットの併用）
- 4 回収結果 有効回収数 1,436（回収率35.9%）
- 5 前回の調査 平成29年10月
- 6 調査結果 調査結果は北九州市のホームページに公開



<調査結果の概要>

1 性別による固定的役割分担意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」と思う人の割合

否定派の割合が9.7ポイント上昇し、前回調査（平成29年度）からさらに向上した。
性別による固定的役割分担意識が薄れている。

否定派	今回[R4]	前回[H29]	増減
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」	77.8%	68.1%	9.7ポイント↑
（そう思わない）	(57.0)	(47.7)	(9.3ポイント↑)
（どちらかと言えばそう思わない）	(20.8)	(20.4)	(0.4ポイント↑)
＜参考＞全国・内閣府調査 ※全国の最新値は2022年で64.3%(R5.3月公表済)	59.8 [R元年]	54.3 [H28年]	5.5ポイント↑

2 女性の職場進出

(1) 女性が職業を持つことについて

「職業継続型」が14.4ポイント増加し、「再就職型」が15.8ポイント減少した。

	今回[R4]	前回[H29]	増減
ずっと職業を持っている方が良い[職業継続型]	51.9%	37.5%	14.4ポイント↑
子どもができたら職業を中断し、子どもに手がからなくなると再び持つ方がよい[再就職型]	35.7	51.5	▲15.8

(2) 男性が育児休業を取得することの考え方

肯定的割合が前回より上昇し8割を超えた。

肯定派	今回[R4]	前回[H29]	増減
「自分または自分の夫が 育児休業を取得することについて」	81.0%	72.5%	8.5ポイント↑
（とったほうが良い）	(52.3)	(37.0)	(15.3ポイント↑)
（どちらかと言えばとった方がよい）	(28.7)	(35.5)	(▲6.8)

3 言葉の認知度について

「ジェンダー」をはじめ各種関連用語の認知度が向上した。

	今回[2022年]	前回[2017年]
ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	89.8%	55.2%
男女共同参画社会	78.4	69.7
ワーク・ライフ・バランス	76.8	68.4

<問合せ先>

総務局女性の輝く社会推進室男女共同参画推進課

担当：田端（課長）、森本（係長） 電話：582-2405